

新春突然の座談會

大川 浪人 略記

舊き淨瑠璃の友人に某なる者あり、文樂の事を批評するなら花を持たしてやれ、あれでも一通りや二通りの辛苦ではない。それでもそれが辛辣嚴肅なる筆にかゝると如何にも歡迎されぬ様に見え、當人にも氣の毒文樂座でも快く思ふまい。世間はソナ面白くないものに金を拂ふてお附合はならぬと来る、結局

文樂の損、淨瑠璃の寂れ、大夫の鼻べちやとなる故成るべく褒めてやつたらよからうと思ふが如何と云ふ話。座には某師匠と某文士が對して居る有名な天狗が二三居る。

吾輩は立所に答へた、貴君とは四十年來の淨瑠璃友人で同じ稽古屋に遊んだ事もあり、某々大會に出て語つた事もあり、文樂、近松堀江、南、新町、北陽の義大夫藝妓、千日前松の座など随分聞いて廻つたが今日程の淨瑠璃を聞いた事はないと思ふが、貴公の所感如何。

某友 三十年以前には黒人を凌ぐ素人、則ち且那衆といふものがあつて一外題に千金を

惜まず時間は三年でも五年でも、金と時間と根氣で貫く素敵な代物が居つて全く玄人跳といふ恰好。それを思ふと素義界の見窄らしき名前は大關横綱でも幕下十兩格にも及ばぬ一例を挙げれば近い處で越路に津大夫はらや呂大夫。一方には大隅、組、住大夫等の實力を知つて居ては現在と比較にならぬ……

甲友 ソレ見給へ貴公は人に文樂の大夫に花を持せと云ひ乍ら實際に臨むとあの通りこれは悪口でなく誹毀中傷ではない眞實正文かけ値いつはりのない處……

吾輩 だから五圓の七圓のと金を取るのならそれに値する藝を示せといふに無理はあるまい。文樂座は税金を拂ふて營業して居る、五圓で足らねば十圓取るべし、但し十圓の價値ある藝を聞かしてほしい、見せてほしいと云ふのぢや。古靱の伊勢音頭、阿波鳴戸、實盛物語り近代の逸品で文樂も大入り東京も大繁昌、無論重大夫、春大夫、住大夫、大隅等の援勢もあつたらうが榮三、文五郎その他の人形と戦捷景氣が八分の人を入れて居る。それは客筋と目と話の模様でその判断が出来る若し此の判定に異議があるならば人形なし所謂素淨瑠璃で幾分の入りを古め得るか試みる

べし、必ずや思ひ半ばに過ぐるものあるべし
先年織大夫等が同志を語らひ人形不要論を唱へて諸國巡業を思ひ立つたが或る妨害に邂逅し憾みを吞んで復歸したが矢張文樂座に人形淨瑠璃の思想は根強く植付けられ淨瑠璃採芝居もしくは淨瑠璃人形芝居の場面は見られない歟。されど纏つて考ふるに如何程人形萬能を唱へても榮三、文五郎は明日も明後日もとは行くまい。老少不定の世なれども此の二人にのみ人形の將來を託する譯には行かぬ後繼者を養成せねばなるまいが紋十郎か玉藏か榮三郎か、それ丈けでよいのか、それが出来るものか。人形の改革案なるものなきや。其の上にまだ緊要なるものは古典藝術として大切な從來の淨瑠璃研究の必要は勿論なるが、時代が替れば社會の模様が替る。忠君愛國が盛んになれば其の忠君愛國の立場が文化の進展に連れて進んで来る。如何に忠義な政岡でも貞節なお園でも其の儘習慣風俗が替つて来ると、政岡もお園も其の儘受入れる事が出来なくなりしはせぬか、文章の調子、句讀、節付みな變遷するであらう。近松以上の學問がある、團平以上の技術がある。大東亞戰完遂の上は盆と正月が一時に來るが因協會の諸君

御用意ありや。

乙友 其用意の如何は大夫、三昧線、人形の腹にちやんとなければならぬが如何にもそれはないらしい。歌舞伎の若手になると意氣激烈たるものがあるが淨瑠璃にはハツキリ意見を表示する者がない、それには何か足らぬ處があるのであらう。昔は小學校を半途退學させても技藝一途に突進させたものだが今日は國民教育を終らざれば退學は許されぬ。否技藝練習の上には益々學業修養の必要があるから六ヶ敷。

某友 長い草鞋に注意をされて怒るが人間てふ動物の短所だ。眞實人間であるならば人の注意戒告に感謝し矯正に精進し正道に進まねばならぬが十中の八九は怒り散らし、彼れが何を知つて……と直に人身攻撃を以て應酬する、其くせ自分が何を知つて居るか何を心得て居るか。人に對する話の仕方知らず、人情風俗、人形の動作が、文字から出て來る譯を知らぬからスカタンを踏んで恥とも思はず、洒々落々。人間學の大樣研究をやらねばならぬ先生たち、どうして人情の至微が語れう。文字では語れぬ。理窟では語れぬと貴重な忠言を研究もせずに、放つて了ふ。剩へ惡

口雜言を以て之に酬いる、淨瑠璃神の罰が當らいで善いものか、恐しい事。

甲友 研究家の聞え高き金杉師匠を訪問したら、計らずも其の研究の或部分を見て驚いた。些細な事でも一々書留めてある。或本に何とかと云ふ事の話が出てあるのがほしさに大枚な價を拂つて買取つたと云ふ話。此の熱究家の伊勢音頭は如何。得意物とは申されまいが奥になる程積重つて來るを面白く語り捌き豫想を打破りし成績。又鳴門もお弓よりは十郎兵衛が天下一品、その原因は文字の意義と人形の動作に油斷がないからである。空々寂々面白可笑しく語りつゝある者に至りては頭に何一ツ殘る事はない……此の上注文する事としてはないが時代適合の語物を持つて昭和の文化を輝かしてほしい。

吾輩 それは無理であらう古靱君は大夫である淨瑠璃を語り活かす役目にある。清六は情緒を補ひ大夫を成功せしむる役柄である。

新時代對應の外題は著作といふ文學的藝術を有する特種の仕事であるが、惜矣哉其の人がない。半可通の批評家や夜店の賣文者では三文の値打なく、既に再三再四實驗済で、如何に金持の文樂座も馬鹿は繰返すまい。

某友 徒に五七調の古い所を並べ甲より乙

より儷み取つて繼ぎ合はした作曲、それは何の意味ありて昭和時代の文明男女を引付ける力ありや。文章の譯を知らず節付の理由を辨へざるものが出鱈目に字數と繼合せて、……サア聞けは少し厚顔と云はざるを得ぬ。

甲友 僕は本誌で女學がウーウーといふ大夫自慢の唸りに笑ひ仆れ、女性の貞節立方に異議を唱へた由を見たが時代の恐るべき變遷を興行者は悟つて居るか、大夫、三昧線、人形も氣付かぬか、淨瑠璃は今や那邊にうろつき居るや。

吾笑 文樂も大夫も文學者も各自それ〴〵意見があらう、皆様のお話は之を誌上に掲げて一般愛道家の革新策の資料に供せん。圖らず尊意を拜聴して有難う存じます。(丁)

道頓堀俱樂部

天牛新昇

南區日本橋南詰東入
電話 南二七四八番